

2020年・7～8月

～富良野の林道のZephyrus達～



イラスト: 永盛文生

今年2020年はあちらこちらからZephyrusたちの豊産が聞こえてきます。富良野でも、いつもはそんなに多くない林道で、チラチラ飛ぶのを見かけます。7月の中旬から8月の初旬にかけて、いつもの布礼別林道と島ノ下の林道でみかけたゼフたちを紹介します。



布礼別林道にて。この日も新鮮なゼフが飛び交い、北海道の蝶を思う存分楽しむ虫研後輩のK氏(2020・7・15)

この日は、路上吸水がよく見られた。(2020・7・15 11:15)



エゾミドリシジミ



ジョウザンミドリシジミ



ジョウザンは林間草原でテリトリーを張っていた。
それを手中に収めるK氏。

2020・7・15 11:00



同じ布礼別林道の路上吸水
ウラキンシジミ。(2020・7・17 9:40)



布礼別林道の鳥糞で吸汁する
ジョウザンミドリ。(2020・7・17 10:46)



これは我が家の庭にやってきたジョウザンミドリ。暑いので庭に水撒きをしたら、濡れたギボウシの葉の水を吸いに降りてきた。人も暑いが蝶も暑いのだろう。熱中症対策ですね。この日はエゾヒメシロも我が家によろよろ飛んできた。
(2020・7・26 12:14)



2020・7・31

この日はエゾツマジロウラジャノメがときどきみられる島ノ下の林道。メ
スアカがまだ元気に卍巴飛翔。相変らずうまく撮れない。



(2020・7・31 15:11)

ここは春にウラキシジミのパラシュート幼虫をたくさん見つけた林道。「完本」のときのウラキンの産卵行動の写真もここでの撮影。そのアオダモの木を見てみると。なんと同じ木でまた産卵行動をしているメスがいた。(2020・7・31 15:21)



細めの枝を登って行く



腹端を強く曲げる。しかし産まなかった。



あきらめて下ってくる

8月3日布礼別林道

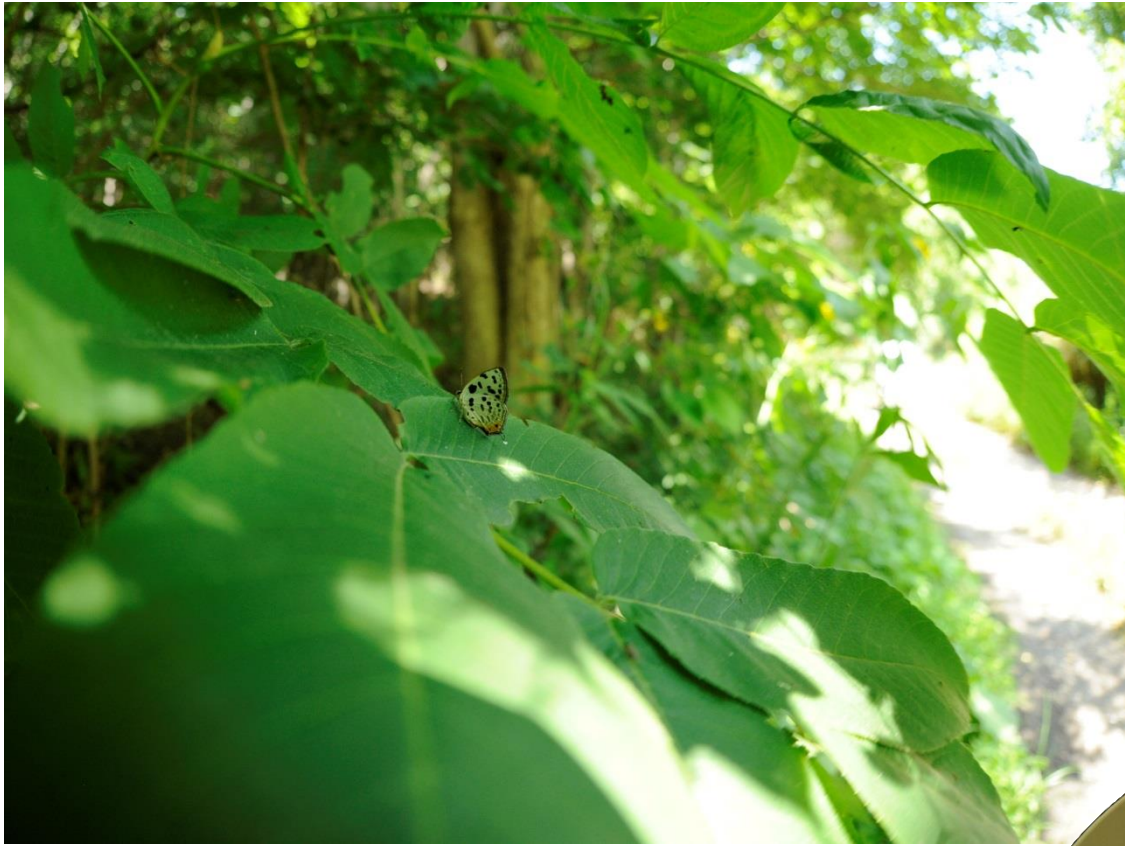
8月に入ると、ゼフはスレてきて、とくにピカピカのみは採集の対象にはならないようだが、産卵行動はこれから本番になってくる。冬芽に産卵するアイノやウラミスジ、ジョウザンの♀は冬芽の完成まで、もうすこし生き延びなければならない。



これは翅がもう痛み始めたアイノの♂
ササの葉をなめている。(11:56)

この日は32℃まで気温が上がり、ゼフ
達もなんだかぐったりしているようだ。





陽は高く林道をじりじり照らしつけ、水たまりも干上がってしまったている。

オオイチの幼虫たちはほとんど脱落している。エゾヒメシロも日差しを避けるように林縁を飛んでいる。そんな日陰のクサフジの小さな株にたくさん卵がついている。



さてゼフの方ですが、テリトリー争いも不活発な時間帯でもあり、もっぱら日陰の草むらや低木の上に止まっているのが観察された。

日陰のオニグルミの葉の上に止まっていたオナガシジミ♂ (11:56)



林道わきのミツバウツギの葉の上になんとアカシジミが3頭も止まっている。ことしはやはりゼフの当たり年なのですね。ゼフ卵を探していた時にはそんな卵は多くなかったはず。何が要因なのでしょう。うがちよっと謎です。

(11:38)



アカシジミの横にはウスイロオナガ。これもあちこちに止まっている。近づくと弱弱しく飛んで、梢の方に登って行く。



(11:40)

ウスイロオナガは図鑑づくりの時に、最後まで私たちに苦しめた種。卵がなかなか見つからず、辻氏が何とか雌から採卵し、それを旭川のMちゃんが得意の促成栽培で幼虫～蛹まで飼育してくれて、なんとか出版に間に合ったといういわくつきの種。それがあちこちでひらひらしている。

ここでも卵をさがしたのになあ。これも謎です。



以上、とりあえずの報告でした。



おまけ:ミスジチョウの1齢
(布礼別林道2020・8・31 2:20)

T, Nagamori